

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 27 年 4 月 2 日 (2015.4.2)

【公開番号】特開 2014-170043 (P2014-170043A)
 【公開日】平成 26 年 9 月 18 日 (2014.9.18)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-050
 【出願番号】特願 2013-40614 (P2013-40614)
 【国際特許分類】

G 0 2 B 15/10 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 15/10

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 2 月 12 日 (2015.2.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

対向する 2 つの端部を有し、前記各々の端部に光の透過口を有する筐体と、

3 つの第 1 の撮像素子を有する 3 板式カメラの、色分解プリズムと組み合わせられて使用されることを前提に設計された撮影レンズの像面側に、前記筐体の一方の前記端部を着脱自在に連結するための第 1 の連結部と、

前記 3 板式カメラの前記第 1 の撮像素子の撮像面より広い撮像面を有する第 2 の撮像素子を有する単板式カラーカメラに、前記筐体の他方の前記端部を着脱自在に連結するための第 2 の連結部と、

合成焦点距離が負である第 1 のレンズ群、球面収差を補正する第 2 のレンズ群、および結像作用を有する第 3 のレンズ群を前記筐体内に被写体側より順に配置した光学系とを具備するリアコンバージョンレンズ。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のリアコンバージョンレンズであって、

前記第 1 のレンズ群は、第 1 の 3 枚貼り合わせレンズにより構成され、

前記第 2 のレンズ群は、被写体側より順に、凹レンズと、凸レンズと、第 2 の 3 枚貼り合わせレンズとにより構成され、

前記第 3 のレンズ群は、凸レンズにより構成される

リアコンバージョンレンズ。

【請求項 3】

請求項 2 に記載のリアコンバージョンレンズであって、

前記第 2 の 3 枚貼り合わせレンズおよび前記第 3 のレンズ群の合成焦点距離は正であるリアコンバージョンレンズ。

【請求項 4】

請求項 2 または 3 に記載のリアコンバージョンレンズであって、

前記第 1 の 3 枚貼り合わせレンズおよび前記第 2 の 3 枚貼り合わせレンズは、

以下の条件式 (1) を満足する

リアコンバージョンレンズ。

$$-3.0 < (f_{2G}) / (f_{1G}) < -1.2 \quad \dots \quad (1)$$

但し、

$f_1 G$ は前記第 1 の 3 枚貼り合わせレンズの合成焦点距離、
 $f_2 G$ は前記第 2 の 3 枚貼り合わせレンズの合成焦点距離
 である。

【請求項 5】

請求項 2 ないし 4 のいずれか 1 項 に記載のリアコンバージョンレンズであって、
 前記第 1 の 3 枚貼り合わせレンズは、
 以下の条件式 (2) を満足する
 リアコンバージョンレンズ。

$$n_1 G_1 > n_1 G_3 > n_1 G_2 \quad \dots \quad (2)$$

但し、

$n_1 G_1$ は前記第 1 の 3 枚貼り合わせレンズの被写体側から 1 枚目のレンズの屈折率、
 $n_1 G_2$ は前記第 1 の 3 枚貼り合わせレンズの被写体側から 2 枚目のレンズの屈折率、
 $n_1 G_3$ は前記第 1 の 3 枚貼り合わせレンズの被写体側から 3 枚目のレンズの屈折率
 である。

【請求項 6】

請求項 2 ないし 5 のいずれか 1 項 に記載のリアコンバージョンレンズであって、
 前記第 2 の 3 枚貼り合わせレンズは、
 以下の条件式 (3) および (4) を満足する
 リアコンバージョンレンズ。

$$n_2 G_2 > n_2 G_1 \quad \dots \quad (3)$$

$$n_2 G_2 > n_2 G_3 \quad \dots \quad (4)$$

但し、

$n_2 G_1$ は前記第 2 の 3 枚貼り合わせレンズの被写体側から 1 枚目のレンズの屈折率、
 $n_2 G_2$ は前記第 2 の 3 枚貼り合わせレンズの被写体側から 2 枚目のレンズの屈折率、
 $n_2 G_3$ は前記第 2 の 3 枚貼り合わせレンズの被写体側から 3 枚目のレンズの屈折率
 である。